

平成 28 年度事務事業評価表(公共事業・継続)

No. 579

事務事業名	流域関連公共下水道雨水施設整備事業
-------	-------------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	上下水道局		
課名	下水道工務課		
課長名	坂野 憲一	内線	50
担当者名	松尾 宙	内線	51

基本目標	050304	機能的で環境と調和したまち
政策		快適で暮らしやすい都市環境の整備
施策		上下水道の整備
関連施策		

会計	大村市下水道事業会計		
款	4	下水道事業資本的支出	
項	1	建設改良費	
目	2	公共事業	
事業コード			

事業類型	7	施設等整備事業(負担金含む)
個別計画	大村湾南部流域関連大村市公共下水道事業計画	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	流域関連公共下水道区域内の住民及び雨水施設		
意図 対象をどのような状態にしたいか	排水区域内において、降雨時に浸水被害が発生している地域や、浸水被害が予想される地域の雨水を排除するため、道路・水路等に雨水渠を布設して、家屋等への浸水被害の軽減を図る。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	下水道計画排水区域である117haの、降雨時における浸水被害の防止を目的に雨水渠を布設する。 認可面積 A=117ha、整備済面積 A=61ha、整備率 51.8%、雨水渠全体延長 L=14km、整備済延長 L=850m		
事業期間	平成 7 年度 ~ 平成 42 年度	実施方法	直営

成果指標名	雨水整備率(事業計画区域内)			算定式等 雨水整備率(%) = 雨水整備面積(ha) / 事業計画区域面積(ha)
着手前現状値	平成 27 年度	単位	%	
完了後計画値	平成 42 年度			

【DO(実施)】

事業実施項目	25年度まで	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
基本計画	実績・計画額							
	項目別進捗率							
実施設計	実績・計画額							
	項目別進捗率							
用地・補償	実績・計画額							
	項目別進捗率							
建設工事	実績・計画額	169,208	0	0	0	0	40,000	40,000
	項目別進捗率	32.92%	32.92%	32.92%	32.92%	32.92%	40.70%	48.48%
事務費等	実績・計画額							
	項目別進捗率							
合計	実績・計画額	169,208	0	0	0	0	40,000	40,000
	項目別進捗率							

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	4,933	0	0	0	0	40,000	40,000	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債	4,933	0	0	0	0	40,000	40,000	
その他一般財源								
② 人件費(千円)	1,570	1,032	564	727	事業内容	事業内容	事業内容	B/C
職員人数(人)	0.19	0.13	0.08	0.10	管路施設 L=220m	管路施設 L=220m		
時間外勤務(時間)	30	25						
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	6,503	1,032	564	727				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成25年度に機能強化を実施した排水ゲートによって、浸水被害の状況がどのように改善したか現状確認を行った。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	排水区域の標高が低いことから、潮の干満により雨水排水状況が大きく影響される。

妥当性	<b>【必要性】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	雨水渠の整備は、市街地内に降った雨水を集めて、河川や大村湾へ速やかに排除することで浸水被害を防止するものであり、市民の生活を守り、安心して暮らせる住環境をつくるために必要な事業である。						
有効性	<b>【緊急性】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	雨水渠の整備については、近年の人口増加に伴う宅地開発や都市型降雨が頻繁に発生していることから、市民からの要望も高まっている。このようなことから浸水被害を防止するために早急に行う必要がある。						
効率性	<b>【施策成果】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	事業計画区域内における雨水整備率は、計画どおり達成している。						
効率性	<b>【コスト】</b>	削減の余地なし		削減の余地あり	該当なし		
	年次計画を定め、他部署と調整しながら計画的・効率的に整備を進めている。又、排水ルートの見直しを行い、汚水管との同時施工を実施することで、工事におけるコストの大幅な削減を図っている。更に、公共工事コスト削減対策大村市新行動計画に基づきコスト削減を図る。						
効率性	<b>【負担割合】</b>	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	雨水施設の整備であることから受益者の特定ができない。又、国、県の要綱等により交付金の割合、交付対象範囲が定められている。						

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	計画的な雨水渠整備の実施と併せ、開発地からの雨水流出抑制や他部局と共同で対策を講じる等、総合的な対策手法を検討する。
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	浸水被害の軽減を図る。

1次評価	今後の方向性		2次評価	対象外	今後の方向性	
	終期設定			終期設定		
	意見等			内容		

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。